

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その30

文：矢部 征男^{ゆきお}さん

「上様御小休所」の碑



「上様御小休所」と刻まれる石碑

奥川杉山集落の西、新潟県境にある^{ならのき}榎木峠頂上付近に小さな碑が遺されています。

高さ50^{うえさまこやすみどころ}センチ余りの碑正面には「上様御小休所」と刻まれ、右面には「御同道此処迄御出向 吉田組郷頭^{ごうがしら} 宮城三九郎 杉山村^{きもり}肝煎佐藤三次郎」とあり、左面には「文政十二己丑年六月十七日」（1829年）とあります。背面には「御巡見使御泊吉田新田村」と記されています。この日、郷頭や肝煎達が吉田組郷頭宅に宿泊する一行をここに出迎えたという記念碑なのです。

上様とは、会津藩主である松平容敬公^{かたか}を指しています。容敬公は、幼少時に松平家の養子となり、文政5年、16歳の時に藩主となりました。この藩主は名君の一人に数えられ、飢饉にあっては領内の農民に米を分け与えたばかりでなく、

周辺藩にまで備蓄米を分けています。また、藩校「日新館」の充実に尽くしました。

この年、若き藩主は、領内見聞や新発田藩領との国境検分のために出かけられたのです。前日、津川に宿泊し、当麻^{たいま}（日出谷）で昼食を済ませた後、この峠に差し掛かっています。ここまでは「小川荘」に属する郷頭や肝煎等が随行し、一方、お出迎えのため、吉田組郷頭をはじめ大勢の村役人たちがここで出迎えたのです。お殿様小休止のため、にわか造りの小屋も立てられました。こうして巡見7日目は吉田組郷頭である宮城家に宿泊されました。



この時の宮城家には、のちに会津の文化人とも呼ばれる“宮城三平”が居り、9歳を過ぎたばかりでした。彼は学問を好み、藩校「日新館」でも学んでいます。この日、「上様」との関りがどのようなものであったかは判りませんが、彼の人生に大きな意義のある一夜だったのではないのでしょうか。

今月の表紙

今月の表紙は、9月1日に西中グラウンドで行われた野沢地区親善大運動会より。「綱引き」では、表紙の7町内チームが圧倒的な強さを見せつけました。（18ページに関連記事）



お知らせ

昨年12月から運用を開始した西会津町の公式フェイスブック「なじよな町、西会津。」と、町公式ホームページのQRコードを掲載します。

皆さん、この機会にぜひアクセスし、ご覧ください。

